

「湖の上を歩かれる主イエス」

2022年01月26日

イエスは、逆風のために弟子たちが漕ぎ悩んでいるのを見て、夜明け頃、湖の上を歩いて弟子たちのところへ行き、そばを通り過ぎようとされた。弟子たちは、イエスが湖の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、叫び声を上げた。皆はイエスを見ておびえたのである。しかし、イエスはすぐに彼らと話をし、「安心しなさい。私だ。恐れることはない」と言われた。イエスが舟に乗り込まれると、風は静まった。弟子たちは心の中で非常に驚いた。(マルコ福音書6章48節～51節)

主イエスは、弟子たちを強いて舟に乗り込ませ、向こう岸のベトサイダに先に行かせた。そして、集まった群衆を解散させ、お一人で祈るために山に行かれた。主イエスは祈りの人で、しばしば、一人になられ、祈りの時を持たれたことを伝えている。あの激しい宣教生活を支えたのは、祈りによって、神からの力を得ていたからである。祈りは静かなことであるが、静的な祈りが動的な行動を生み出すのである。

夕方になった頃、弟子たちはガリラヤ湖の真ん中まで漕ぎ出たが、主イエスはまだ陸地におられた。すると、ガリラヤ湖特有の風が吹いて、弟子たちは逆風に漕ぎ悩んでいた。それを見た主イエスは、夜明け頃、湖の上を歩いて弟子たちの所へ行き、傍を通り過ぎようとされた。逆風が吹くガリラヤ湖の上を歩かれたという。人は水の上を歩くことはできない。しかし、歩いている人を見て、弟子たちは幽霊だと思い、恐怖の叫びを上げた。主イエスはすぐに、「安心しなさい。私だ。恐れることはない」と言われた。

マタイ福音書14章に、平行記事が記されている。湖の上を歩かれる主イエスを知ったペトロは、「主よ、あなたでしたら、私に命令して、水の上を歩いて御もとに行かせてください」と、ペトロらしい無謀な願いをした。「来なさい」と言われたので、ペトロは舟から身を乗り出し、主イエスの方に進むと、主イエスと同じように水の上を歩くことができた。ところが、次の瞬間、ペトロは風を見て怖くなり、沈みかけた。主イエスから風の方に目を取られたからである。この記述は、湖の上を歩かれる主イエスが誰であるかを伝えている。ガリラヤ湖の逆風は、この世の収まりがつかない混乱・カオスである。主イエスは、その混乱を制して、平穩に進まれる神の子である。だから、ペトロが主イエスに注目して歩むと、混沌を制して前進できた。ところが、主イエスから目を離し、混沌の恐怖に囚われると、たちまち混沌の中に飲み込まれた。嵐を制して歩まれる神の子イエスを見つめ、信頼して進みなさい。そうすれば、どんな困難をも乗り越えることができるというメッセージである。私は、この奇跡に幾度、与ったことであろうか。

主イエスが舟に乗り込まれると、風は静まった。マルコ福音書は、弟子たちがパンと魚の奇跡が終末論的共同体を先取りした「神の国」の喜びであることを悟らず、心が頑なになっていたのだから、湖の上を歩かれ、風を制された主イエスに非常に驚いたとだけ記している。マタイ福音書は、弟子たちは「あなたは神の子です」と言って主イエスを拝したと締めくくっている。この告白が、湖の上を歩まれる奇跡の鍵である。

風は止み、目指す向こう岸について、舟から上がると、主イエスと知って、村から町から、病人を床に載せて、運んで来た。また、病人を広場に寝かせ、主イエスの衣の裾に触れさせて欲しいと願い、触れた者は皆、癒された。主イエスの周りには、痛み、苦しむ民衆が押し寄せ、主イエスは、彼らを癒やし、「神の国」のリアリティを示された。